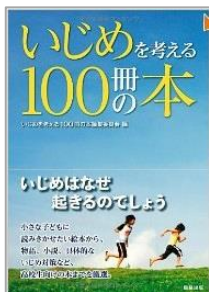


# いじめを考える 100冊の本

いじめはなぜ起きるのでしょうか

いじめを考える 100冊の本編集委員会 著



単行本：232 ページ  
出版社：駒草出版  
発行日：2013/8/29 初版発行  
ISBN：978-4-905447-18-4  
価格：1,500 円＋税

## 主要目次

はじめに (p.3)

◆「幼児」 読みきかせながら考える (p.16～34)

◆「小学校低学年」 先生といっしょに考える (p.36～58)

◆「小学校中学年」 友だちといっしょに考える (p.60～102)

◆「小学校高学年」 クラスの中で考える (p.104～132)

◆「中学生」 学校生活の中で考える (p.134～184)

◆「高校生」 少しおとなになって考える (p.186～222)

いじめを考える資料 (p.224)

さくいん (p.228)

## 著者（編集委員）紹介

**太田昭臣（おおたあきおみ）** 1930年茨城県生まれ。日本大学芸術科卒業。民間会社勤務後、茨城県内中学校教師として39年間勤務、退職。1991年沖縄に赴任、琉球大学教授となり1996年退官。現在、社会福祉法人栗の実福祉会理事。

**遠藤芳男（えんどうよしお）** 1950年埼玉県生まれ。新潟大学人文学部卒業。教師歴37年。埼玉県立上尾高校定時制勤務後、定年退職。現在川口自主夜間中学スタッフ。  
**生方孝子（うぶかたかこ）** 1965年、早稲田大学卒業。教育、福祉、女性問題などの図書の編集にたずさわる。1995年、編集事務所を設立、今日に至る。

## ▼ 本書を「ひと言」で言うと / Abstract

「いじめ」について子どもや大人が考えるための素材となる本を107冊厳選し、それぞれについて内容の一部や要旨、書評などを紹介。幼児から高校生まで、年代別に整理されており、ジャンルも絵本、物語、小説、実用書まで幅広い。一言で、いじめに関する本を探し選ぶ前に選ぶ本と言える。

## ▼ 中身の一部、抜粋して紹介 / Select some parts from this book

### はじめに

毎日のように報道されるいじめ問題を読むと、子どもたちが多くの問題を抱えて生きているのが分かります。いじめられる不安や、恐怖心から、ほんとは楽しいはずの学校に行くのがつらくて、地獄のようだと思っている子がいます。いじている子にも、誰かを傷つけることで精神のバランスをとらなければいけないような、つらい問題を抱えている子もいます。また、いじめを見てみぬふりをして、わが身の安全を図っている子にも、将来にわたって深い心の傷を残します。

一向に取まらない、いじめ問題にわたしたちはどう向き合ったらよいか、これまで多くの人びとが、さまざまな立場から、発言し、提言してきました。本書はその中から、107冊の本を選んで、読書案内としてまとめました。

いじめで悩んでいる子どもたち、その親たち、そして学校の先生方に、いじめの実態や、子どもたちの心を知っていただき、このうちのどれか一冊でも、いじめ問題の解決のための手がかりとして、役立てていただけたらと願って、この本をまとめました。

### ◆「幼児」 読みきかせながら考える

#### 絵本『わたしから、ありがとう。』

中島啓江 原案  
河原まり子 作・絵  
岩崎書店  
2006年10月  
1300円＋税



←本書「幼児」で紹介されている、11冊の中の1つ

#### わたしの まほうの ことばは ありがとう

ももちゃんはおわかれの日、かあさんとやくそくしたとおり、「あなたのためをみて ありがとう」といって一人ひとりにプレゼントをあげました。すると、みんながありがとうとこたえてくれます。ともだちなんてひとりもないとおもっていたのに。

とうとうブラッキーのぼん、ももちゃんが「ありがとう」っていったら、ブラッキーのめからなみだがかぼれて、ちいさなこえがきこえました。「ごめんなさい」。

このよのなかで いちばん かなしいことは ころろが まずしいこと いじめっこ  
のブラッキーも そのことに きがつきました。だからももちゃんに「ごめんなさい」「ありがとう」が いえたのです。

ありがとうって すてきな ことばだね。

### ◆「小学校低学年」 先生といっしょに考える

#### 絵本『ボロ』

いそみゆき 作  
長新太 絵  
ポプラ社  
1998年11月  
1200円＋税



←本書「小学校低学年」で紹介されている、13冊の中の1つ

## ポロと過ごすようになって

わたしはいじめられっ子です。ひるやすみにうわばきがなくなりました。なくなったのは二度目です。もう五時間目がはじまっているのに、うわばきが見つかりません。そのとき、ポロと出会います。毛並みはぼろぼろのモップのような犬でした。わたしは、「ぼろぼろのポロちゃん」と声をかけて、すぐ仲良しになりました。

ポロがついてくるのに、「もう、学校なんかいかない。ぜったいに行くもんか」と決意して、次の日から学校を休みはじめます。

いじめに負けそうになってしまったとき、夢の中でポロが呼んでいるように思え、四日めには学校に向かいました。ポロに出会えたとき、ポロはわたしの顔をなめまわし、ごろんとあお向けに寝転びました。

ポロの毛並みのやわらかさとあたたかさが伝わってきて、かさかさになっていた心の奥から、なにかがじんわりとわかあがってくるものがありました。

大事なものを見つけたとき、それを守るためには強くなれるのです。

## ◆「小学校中学年」 友だちといっしょに考える

### 絵本『けんかにかんぱい!』

宮川ひろ 作  
小泉み子 絵  
童心社  
2012年4月  
1100円+税



←本書「小学校  
中学年」で紹介さ  
れている、22冊の  
中の1つ

### けんかして、わかりあって、仲良くなる

けんかをするを、良くないことと考えるのは、当然だと思います。ですが、けんかをするのは悪いことばかりではないのです。

けんかの種類は、さまざまありますが、嫌なことをさせたり、仲間外れにしたりするのは、いじめにつながる良くないことです。ですが、きちんとけんかをすれば、きっとわかりあえるのだと思います。いじめは、周囲の人たちが見て見ぬふりをすることが多いと思います。よくいわれていることですが、見て見ぬふりをするのは、いじめをしていることと何ら変わりません。「けんか係」という役目を担い、仲直りするまで見守ることで、いじめを未然に防いでいるのです。子ども同士で解決できる力を養うこと、そして、それが難しい時におとながそっと手を差し伸べてあげられるようにすることが大事なのだと思います。

## ◆「小学校高学年」 クラスの中で考える

### 絵本『しらんぷり』

梅田俊作/佳子 作  
梅田俊作/佳子 絵  
ポプラ社  
1997年6月  
1500円+税



←本書「小学校  
高学年」で紹介さ  
れている、16冊の  
中の1つ

### しらんぷりというのは、いじめに加わることで

ドンチャンがいじめられていることを知っている屋台のおじさんにいわれた。「しらんぷりはあかん。心にともつる灯がちっそうなくなってしまうがな」ドンチャンはヤラガセたち四人組にいじめられていました。でもぼくは見えないふりをしていました。口に出したら、今度はこっちがやばいからです。

ドンチャンへのいじめは見えないところで続いていた。それから二週間後、ドンチャンは転校して行きました。

小学校の卒業式の日、ぼくは思いきってすに立ち上がっていました。「ぼくは勇気がなくて……友だちがいじめられてるの

に、しらんぷりばかり……、してて……」

いじめっ子を断罪して終わるのではなく、その子も含めてやがて中学生になり青年になる子どもたちへ、温かいまなざしが向けられて終わっていて心地よい一冊です。

## ◆「中学生」 学校生活の中で考える

### 小説『いじめ 14歳のMessage』

林慧樹 著  
片桐郁美 イラスト  
小学館  
2007年12月  
438円+税



←本書「中学生」で  
紹介されている、  
26冊の中の1つ

### 14歳・同世代からのメッセージ

この書は「第18回小学館パレットノベル大賞審査員特別賞」を受賞した、作者が14歳のときに書いた小説です。

小学校五、六年生から中学校までの、主に部活動のなかでのいじめ体験をもとにしています。その中でいじめの実態が生々しく再現されていきます。

作者は「あとがき」で、今日、誰でも感じていることを次のように記しています。

「イジメで自殺した人のニュースを聞くのは、もう絶対に嫌だ。それについて適当にコメントする大人達の言葉を聞くのも、もう嫌だ。もし、いじている人がいるのだったら、もうやめようよ。そんなことしたら相手だけじゃなくて、自分もたくさん傷つくよ。だから、もっとお互いを尊重しあうことを、まず覚えようよ!」

## ◆「高校生」 少しおとなになって考える

### 実用書『君に伝えたい! 学校や友達とのルール』

義家弘介 著

シーアンドアール研究所  
2011年5月  
1400円+税



←本書「高校生」で  
紹介されている、  
19冊の中の1つ

### 祈りにも似たこのおもいを君に

義家さんの生い立ちは、「哀しい不良少年でした」、「高校からも追放され、同時に、生まれ育った家からも追われ、里子に出されました。」と記しているように、波乱万丈の少年時代を過ごされました。

当時、問題児は学校から除籍する、排除するというのが一般的でした。どれだけの子どもたちが非人間的な理由をつきつけられて除籍・排除されてしまったのでしょうか。

日本の教育・学校教育のシステムの中で特記すべき学校が現れました。北海道の「私立北星学園余市高等学校」でした。全国の除籍・排除された問題児・不良少年たちを受け入れ、学校・地域をあげて、人間としてあたりまえの尊厳を認め、ごくあたりまえの教育を根気よく展開しはじめたのです。

義家さんはこの学校で学び、大学を卒業すると、余市高校の教師として戻ります。

これらの体験・経験をふまえた、第2章「これってイジメですか?」は、その問題提起と、考え方、解決方法を具体的に示してくれています。いじめ問題に限らず、今日の少年・少女がかかえる問題に幅広く答えてくれる一冊になっています。

—以上、内容から一部抜粋して掲載—

>>> 残り、原著で